

# 土・まち・みどり

通信第40号

2010.8.1

発行 NPO 法人土とみどりを守る会

連絡先 3718-8558(柳島)

CONTENTS ◆ミニ園遊会 ◆おくさわ今と昔 ◆描かれた奥沢とその周辺 ◆まちかどの花  
◆グリーンサムのお庭拝見 ◆活動報告 ◆会からのお知らせ

## 土とみどりのミニ園遊会

5月のつどい

5月22日は晴天に恵まれ絶好の園遊会日和でした。園遊会に先立って10時30分からNPO法人土とみどりを守る会の総会が開かれました。はじめに3月に亡くなられた原佳男さんを偲んで黙祷し、毎年快く場所を提供して下さった御好意に感謝して御冥福を祈りました。



(いつもの受付風景)



(総会；堀内代表の事業報告)



(総会；遠藤理事の会計報告)

総会が終わって売店が開く迄の間にティータイムを設け、お集まりの皆さんにテーブルを囲んでくつろ

いで頂きました。ご近所の方や道ですれ違ったりする方ともお馴染みになって頂けるように一との主催者の願いは届いたでしょうか。皆さん賑やかに楽しんでいらっしやる御様子でした。



(総会後のティータイム)

やがて売店が開き、毎年お馴染みの品が並ぶ店頭が大賑わいで、お花の苗もすべて完売。なお梅干・みそ・塩については追加をご希望の方は事務局にお電話下さい。

お買物の後、買ったお菓子でお茶を召上ってお話が弾む方など、楽しい風景が展開され私たちもとても幸せな気分でした。ことしは終了時間迄片付けないでお客様をお待ちしました。



(売店でのお買い物)

皆様のご協力でも今年も賑やかに無事に終わることができました。土地をお貸し下さった原夫人の御好意、そして賑やかな時間を辛抱して下さった近隣の皆様・お菓子作りや売店に御協力下さった方々・御来場の皆様、本当にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。(柳島)

# おくさわ今と昔

(このシリーズでは奥沢に長くお住まいの方と新しく移ってきた方々など、毎回2人の住民の方が登場し、この街にちなんだエピソードを語っていただきます。)

## 奥沢の今昔

奥沢二丁目 原 忠男

奥沢はその昔、荏原郡玉川村大字奥沢といい、世田谷七沢一北沢・馬引沢(現駒沢<sup>めくりさわ</sup>)・廻沢・池沢(現池尻)・野沢・深沢と奥沢一の一番奥にあった沢で、奥沢と名が付いたそうです。奥沢村は九品仏川を境にして、北と東は碑文谷と衾村(現自由が丘と緑が丘)に接し、南と西は等々力村に接していました。

奥沢<sup>ほむら</sup>本村の愛宕塚から人骨や仏像が発見され古代の遺跡と実証され、現在和田家で管理されているそうです。この和田家は源頼朝の重臣である和田義盛の子孫で、家臣12名とともにこの地に来て定住されたそうです。

十五世紀後半、玉川村は吉良領となり家臣の大平出羽守が今の浄真寺の地に奥沢城を築きました。城は単純な土塁造りで、小田原北条氏の直轄下にありましたが、北条氏の滅亡とともに「さぎ草伝説」の秘話が残りました。

その後、1658年には現在の四丁目から八丁目に新たに奥沢新田村ができました。明治五年、奥沢本村の戸数は26戸住民は145人、また新田村には逃れてきた武士が姓を変えて住みつき、戸数113戸住民666人と記されています。明治九年、本村と新田村を合併して奥沢村となりました。

中央部の大地は山林と竹やぶが点在する他はほとんどが畑で、九品仏川沿い一帯の低地は水田地帯で、北側の地は清水が小川となって流れ、フナやハヤなどの魚が泳いでいました。その後、九品仏の裏に池を掘って土を運んで低い所を埋めましたが、戦後はその逆になって池は埋められてしまいました。

明治四十年、渋谷一二子玉川間に玉川電車開通、大正七年頃村の有力者が交渉を始め、大正十二年三月目蒲線が開通して市街化は急速に進みました。同年九月関東大震災に直面、しかしその後

海軍村・ドイツ村ができ戦後復興もなされ、目蒲線は目黒線になり街並も変わりはしますが、緑と平和の街であることは何と喜ばしいことかと感じ入っております。



## あこがれの町奥沢にて

奥沢二丁目 堀尾 隆文・佳美

ギャラリーくら蔵の堀尾と申します。はやいもので4年目を迎えようとしております。その間、奥澤共栄会ははじめ、ご近隣の皆様にあたたかく見守っていただき心より御礼申しあげます。

奥沢に店を出させていただき思うことがあります。みどりが豊かで、土と花の香りがすること、子供達が礼儀正しく笑顔がすばらしいこと、とても静かな町で時間がゆっくりとすぎていく感じさえします。

今から30年前のことです。同い年の従兄弟が、大学入学のために下宿生活を始めました。それが奥沢でした。京都の西陣から上京してきた彼は、石垣と生け垣をめぐらしたこの町並みがとても凛としていて落ち着くと言っていました。

彼の下宿に遊びに行っては繁華街に夜遅くまで出かけることがありましたが、奥沢駅に降り立つと身が引き締まったのを覚えています。奥沢の町には、そのように思わせる不思議な雰囲気がありました。

今、世間では人と人との繋がりが希薄になったといわれています。でも、この奥沢では町内いたるところで立ち話をなさっている人を見かけます。そして子どもたちの登・下校時間にあわせたかのように犬の散歩に出かける方、ご自宅の前に出てお掃除をはじめられるご婦人。このさりげない気配りで奥沢のすばらしい環境が維持されていると思いました。

私はこの町が益々好きになりました。

今年も奥澤神社の大祭が近づいてまいりました。奥沢にきまして三回目のお祭りになります。三年前に一緒にお祭りに参加しませんかとお誘いを受けたときは厳粛な神事なのに新参者の私たちがお手伝いしていいものかと正直迷いましたが奥沢は住む人にも新しく訪れた人にも優しい町でした。

本年は奥沢への感謝の気持ちと、みんなが幸せに暮らしていけるよう祈願して、大祭のお手伝いをさせていただこうと思っています。

## 描かれた奥沢とその周辺

### ②本多秋五日記

(シリーズで小説や随筆に登場する奥沢の様子を紹介します。)

日本を代表する文芸評論家・本多秋五(1908 - 2001)は太平洋戦争末期、奥沢の姉の家に寄寓し、午前中央公論社出版文化研究所、午後は情報局に勤めていました。1945年1月17日付け日記に「今夜も自由が丘に帰りついたら警々(注)」とありますが、この頃はまだゆとりが感じられます。しかし、ほどなく都心が、さらには京浜地区が空爆にさらされるようになり、本多の記述も緊迫の度合いを深めてゆきます。

昨夜10時30分ころよりB 29の100余機が1機ずつ3時ころまで低高度で来襲。東北方に大火災おこる。田園調布にも被弾あり。火災おこる。三度頭上を通過す(3月10日) / 昨夜0:30ころより数目標来襲。主力は太田、京浜方面。(略)田園調布に爆弾落つ(4日4日)

その中であっても「今朝は九品仏に桃、菜種の花、椿を美しと見る。自由が丘一緑が丘一大岡山の間、溝川のへりに一重の桜満開(4月11日)と、春の訪れに心安らぐひとときもあったようですが、数日後にはついに自由が丘が戦火にさらされます。

16 / IV (月) 晴 終日在宅 姉の手伝ひ  
昨夜B 29二〇〇機京浜西南部に来襲。自由が丘火災。  
後。9:25ころ警々。10:00ころから来襲。  
はじめは房総から入って、東南からこちらへ近

づき、左旋回して去った。南方で高射砲がよく命中させた。早く東南方に火の手があがり、西に延びた。 / 后。11:00ころから相模湾から侵入の敵が頭上近くを通過した。このころからラジオ消え、照空燈も照らさず、南方は一面火。裏を見ると自由が丘が火事。東北の崖のところへ行って見る。風は南東に向って弱く吹く。この分ならよしと思ふ。田園調布の方角にも火を出す。 / 煙で空は暗く、星もかくれた。頭上を爆音が通って行くのに、人々は邸外を歩き廻ってゐる。自由が丘の火災を眺めてゐる。避難者あり、家財を出すもあり。姉の家のちかく、豆腐屋の隣の空地に15Kの焼夷弾おち無事。 / もう何時家におちても不思議ないと思ふ。どうでも穴を掘らねばと思ふ。 / 朝。食前自由が丘の焼痕を見に行く。盛んに煙が出てゐる。一家健在、元気旺盛。移転先〇〇と書きだしてある。水道あふれ、電線垂れ下がる。荷物背負った人、リヤカー引いた人。

そして、4月20日。戦況を分析し、「前途は暗い。」と嘆いたあと、「樹々の新緑は例年になく美しい。驚愕にちかい。春の暖かさは物悲しい。すべて逆のやうだ。」と綴っています。芽吹き的美しさすら無惨に映る切迫感が、読む者にも傷ましくせまります。(注);警戒警報 (香山)

## まちかどの花

2月の少し春めいた日和でした。大ケヤキのある散歩道中程の隅切りの角で、紅梅がみごとに咲揃った植木鉢を目にした時の喜びは忘れられません。それぞれの枝に押し合うように紅い花が並んで早春の透明な光に輝いている様子は、私の春を待つ心に「もうすぐよ」と言って励ましてくれているようにも思えました。寒さに耐えて立派に咲いた盆栽の鉢を道に飾り、まちの人々に「春」をプレゼントしようという優しいお心遣いが感じられて、花の美しさと共に感動しました。



2丁目では、他にも隅切りの角に四季折々の草花を置いて通る人を楽しませて下さるお宅や、門前に美しい鉢を飾っていらっしゃるお宅などが、チェリーセージの鉢と共にまちのあたたかい雰囲気を作り出しています。我がまちのやさしさ・たのしさをしみじみ味わいつつ日々を暮らしています。(柳島)



# グリーンサムのお庭拝見 Vol. 33

まだ梅雨が明けないむし暑い7月。少し涼しくなった夕方に東玉川2丁目の舂岡家を訪問しました。

門を開けると左に波形の曲線を画いている高さ50cmぐらいの石垣。右に竜の鬚が猫の尻尾のように植えてある花壇と飛石の周りに敷き詰められた白い砂利が目を引きまます。

石垣は以前からあった石と頂いた石とを使用して舂岡さんが植木屋さんと作製した。奥様が鎌倉から帰宅すると出来上がっていたのでびっくりしたとか。

その石垣の中にはサツキ・マキ・モクレン・モミジ・ボケと奥様が駒沢から自転車で運んだサルスベリ。お嬢様が誕生した時の記念樹のカイドウ。17本の椿など。エエッ 17本の椿ですか。仕事で大島を行き来していた舂岡さんが持ち帰ったのです。その中でご自慢の椿は黄金色の花が咲き細長い葉の「金

花茶」。散歩中に気になる変わった椿を見ると欲しくなり「一枝下さい」と言ってもらってくる。植木鉢の中に挿し木をした椿は地面に植えられる日まで待機中。

右の踏石の近くに背の高いボタンとゼラニウム。花壇は奥様の担当で梅・ネムノキ・コデマリと一緒にペゴニア・ピンクの紫陽花・ペチュニア・小さいダリア達が愛らしく咲いている。

ぐるりと見渡すとデコボコの土が気になってくる。それは土の中に酸素を入れるためと植物が水を吸い易いようにと2ヶ月に1回は土を掘り起こしているからでした。植木の葉はキラキラと輝いています。

「雑草は1本もない」と舂岡さん。そばで「もっと砂利を撒かねば」と奥様が言う。

舂岡家のお庭は「元氣」そのものでした。(遠藤)

## 活動報告

●「みかも読書空間」が「地域共生のいえ」に登録され、4月17日に発足式があり堀内代表と鈴木が出席しました。「地域共生のいえ」とは、財団法人トラストまちづくりの事業の一つで、オーナー自らの意思により、地域の公益的かつ非営利なまちづくり活動の場として、地域の絆を育み開放性のある活用がなされている私有の建物でのことです。共生のいえはこれで9戸になるそうですが、玉川地区では初めてです。今後のご活動を期待します。

●新しい活動に多くの方々が参加して頂くことによって会活動の充実をはかるために、5月22日ミニ園遊会の折に会員アンケートを行いました。新しい活動候補としてあげた・落葉掃き等地域の清掃・奥沢ゆかりの文学調査・フラワーアレンジメント・コーラス・自分史の書き方講習の内、多くの関心が寄せられたのは、落葉掃き、奥沢文学調査、フラワーアレンジメント及び自分史でした。これらの活動には、参加だけでなく企画段階からの参加に多くの関心が寄せられています。これから実施の具体化検討しますので、企画からの参加をお待ちしています。

## 会からのお知らせ

●8月26日(木) 13時30分、奥沢東地区会館でフラワーアレンジメント講習会を開きます。身近な材料を使って楽しめますから、同封のチラシをご覧ください。

●9月25日(土)にまちあるきを計画しています。9時に自由が丘南口集合、コースは用賀駅→百人一首の道→砧公園→フラワーランド→用賀です。9月にチラシを配布します。

●土とみどりを守る会はいつでも新会員を募集して

います。会の活動を支える会費は1口1,000円です。どうぞ御協力をお願い致します。入会のご連絡は下記へ。



土とみどりを守る会 連絡先

世田谷区奥沢 2-19-9 長瀬雅義 5729-0126

世田谷区奥沢 2-41-2 柳島尚子 3718-8558

ホームページ ; <http://tsuchimidori.net>

e-mail ; [info@tsuchimidori.net](mailto:info@tsuchimidori.net)